

雜錄

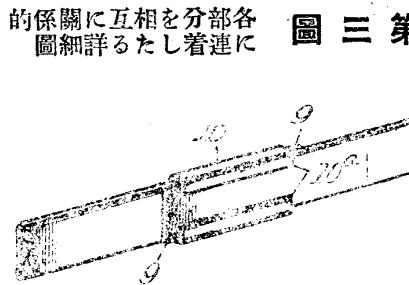
第三〇六九六號

大正六年一月八日出願
特許
大正六年一月三十日特許
權者米國シグノード・システム
インコーポレーテッド

荷造用帶鐵の封鍼連結手段

發明の性質及び目的の要領 本發明は主として荷造用の帶鐵を互に重ね合はされたる兩端に△形の扁平なる套鑛を挿入し之れを適當なる鉗子にて前記

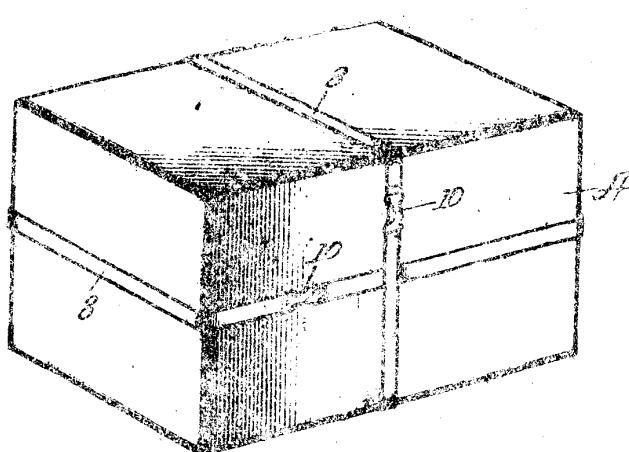
第三圖



第五圖



第一圖 本發明の段手結連鍼封の明確化
を端兩るせ合ね重に亘てに段手結連鍼封の明確化
圖景配の函の所るせ置裝を鐵帶るたれらせ結緊



(A) 帶鐵
(9) 帶鐵の端部
(10) 套管

兩端と共に縦に握着する所の封鍼連結手段に係り其目的とする所は構造簡単にして完全なる此種の封鍼連結を得んとするにあり

特許請求の範囲 一、本文に詳記し添付圖面に示す如く帶鐵の兩端部を互に接觸せしめ是等の端部を包蓋する△形の薄き金屬製の套管を嵌め此套管と前記の端部と疊込み相互に密接する様壓着する所の荷造用帶鐵の封鍼連結手段

一、本文に詳記し添付圖面に示す如く前記套管の兩端を帶鐵と共に握着し帶鐵の兩端は第七圖に示せる如く圓き断面を成し其一端は他端上に重り套鑛と共に捻疊まれて帶鐵の兩端を完全に連結する所の請求範囲第一項記載の荷造用帶鐵の封鍼連結手段

●電氣製鐵創立　日本鋼管會社の關係者たる淺野總一郎、白石元次郎、大橋新太郎、太田清藏、岸本吉右衛門、今泉嘉一郎、大川平三郎、荒井泰治諸氏の發起にて資本金五百萬圓の電氣製鐵會社を設立する事となりたるが其計畫の大要是去年今泉博士が電爐を以て兵器大砲等の原料となる可き特殊銑鐵製造のパテントを瑞典より譲り受しを以て之を基礎として特殊銑鐵の電氣製造を目論見たるものなるか第一着として富山縣方面に工場を設立する筈にて富山電氣會社より五千馬力買受の契約成立せりと原鑛は内地及朝鮮產を使用し明年十一月作業を開始し最初は年一萬噸を製

造し逐年五萬噸まで増加すへき計畫なりと云ふ。

● 東洋製鐵進行 東洋製鐵會社にては二月七日午前十時より帝國ホテルに創立委員總會を開さ

中野武營、田中源太郎、村井吉兵衛、安田善三郎、三村君平、和田豐治、原富太郎、山田直矢、郷誠之助、大橋新太郎、中島久滿吉、倉知鐵吉

諸氏會合し議會解散に關する製鐵業獎勵法の善後策につき政府訪問の顛末を中野及中島兩氏より報告し其報告に對し委員會は獎勵法に對する政府の意嚮を知り得たるを以て満場一致創立事務を進行するに決定し發企人の總數を決定すると共と發企人の總持株數を調査し更に協議會を開き株式應募其他創立に關する詳細の事項を議定するに決し午後三時頃散會せり因に發企人總數は約四百人の見込にて内三百名内外の承諾を得總株數五十萬株中約百三十名十萬株位は引受確定せりと云ふ。

● 川崎の製鐵事業 川崎造船所にては昨年末兵庫分工場内にロール工場を設置し爾來棒鐵、各種型物類を製造し居れるが今回更に鐵板をも製造する事となりたる由。

● 伊藤製鋼研究所 伊藤九兵衛氏は今回製鋼研究所を創立する事となり元東京倉庫副支配人河方朝男氏を聘して總支配人たらしめ大阪西成郡千舟村字佃蒲島に工場新築中なる由にて本年六月頃より各種の製品を市場に出す筈なりと製品の主なるものは高等工具並に各種材料鋼にして尙將來朝鮮兼ニ浦三菱製鐵所產出の銑鐵を用ひてクルーシブルスティール製造の計畫もありと同所は約一年前より大阪

機械製作所の名義にて機械製作に從事しつゝありたるにて今回右製鋼に手を染むると同時に製藥方面に對しても研究を進むる方針なりといふ。

● 大治新製鐵所計畫 支那前農工總長張謇氏は今回湖北大冶縣の某（電文不明）鑛山を買收し孫逸仙（？）孫寶琦、谷鍾秀、唐紹儀、陳錦濤氏等四十餘名共同して濟華公司と稱する製鐵所を創設せんと計畫しつゝあり其資本金六百萬圓にて同鐵山は漢治萍の大治鐵山よりも有望なりと。

● 鞍山站製鐵規模 南滿鐵道鞍山站製鐵所の計畫の將來は年產額百萬噸に達せしめん方針にて愈完成の曉は八幡製鐵所に倍加する大規模のものたるに至るへしされと最初は年產額十五萬噸見當とし三千萬圓の資本金を以て明年度より三年間に竣工せしむること、其内本年度は八百萬圓を投して製鐵所工場の建築と共に熔鑛爐一臺を据付け明後年より製鐵に着手すること、し残り二箇年には殘餘の資金を以て製品工場を建築し尙更に熔鑛爐一臺を増設する計畫にして製品は主として内地に於て未だ着手せざる鐵板を製作する筈なりと。

● 造船界の現勢

最近調査せる所に依れば現在國內三菱、川崎、大阪鐵工所等一千噸以上の鋼鐵船建造能力を有する大造船所に於て建造中なる新造商船並に建造契約確定せる船數は總數百三十隻六十五萬九百五十噸に上り其造船所配分表は

造船所

隻數

三菱長崎

九隻

一萬四千噸

戸棧橋)二千百噸二隻(仕入船)
▲松尾鐵工所三千三十噸(仕入船)

同上

四

一萬八千六百

川崎造船

廿七

十五萬五千

大阪鐵工

廿二

十一萬四千五百

同上

十三

六萬七千七百

浦賀船渠

廿五

八萬四千

藤永田造船

廿八

一萬五千

小野造船

三一

八千三百

原田造船

四

一千五百

播磨造船

十二

一萬五千六百

松尾鐵工

二二

六千六十

石川島造船

三萬

三萬

淺野造船

十二

八萬

を示し其内今年竣成豫定のものは六十隻、二十八萬千三百
七十九噸なるか更に之を註文主別に列舉すれば左の如し

▲三菱造船所 五千百五十噸(辰馬汽船)△七千三百十七噸(南滿汽船)△七
千三百十七噸(橋本嘉造)△三千百六十一噸(鈴木商店)△五千百五十噸二隻
三千七百七十七噸二隻(以上仕入船)

▲川崎造船所 △千五百五十噸(朝鮮郵船)△七千五百噸二隻(仕入船)

△五千六百噸九隻(仕入船)

▲大阪鐵工所六千五百噸(内國汽船)△六千五百噸(勝田商會)△千二百噸
(日本汽船)△四千五百噸(内國汽船)△四千五百噸(山本藤助)△四千五百噸
(白洋汽船)△八千噸四隻四千五百噸四隻(以上大阪商船△五千五百噸五隻
六千五百噸二隻(以上日本郵船)△四千五百噸一隻三千二百噸二隻(以上仕
入船)

▲浦賀船渠 四千六百噸(岸本汽船)△四千六百噸二隻(山下汽船)△四千
六百噸(宇都宮)△四千五百噸(廣海)△四千六百噸(日露漁業)

▲石川島造船所 二千百噸(佐藤商會)△二千百噸二隻(大阪商船)△二千
百噸(岸本汽船)

▲藤永田造船所 二千百噸(岸本汽船)△二千百噸(日下部)△二千百噸(神
百噸(岸本汽船))

●世界建造商船

米國商務省管船局が種々なる信用し得べき私報に基き概算
する處によれば千九百十六年中世界に於ける商船の建造數
は二千五百五艘其總數百八十九萬九千九百四十三噸にして
同年中戰爭の爲めに失ひたるものは

▲千百四十九艘 其總噸數二百八萬二千六百噸にして差引
き二十萬噸の減少なり即ち千九百十六年六月ロイド登録に
より四千八百六十八萬三千百三十六噸とす千九百十六年中
に建造せる商船の隻數及噸數左の如し。

北米合衆國	二二三隻	五六〇、二三九噸
英本國及英領地	五一〇	六一九、三三六
其他諸外國	七八二	七二〇、三六八
計	二、五〇五	一、八九九、九四三

▲千九百十六年建造商船國別表

日本	本	二五〇隻	二四六、二三四噸
獨	蘭	二九七	六〇、四七〇
西	利	三〇	四四、九〇三
支	太	七〇	四〇二、〇九
班	威	三五	三九、四五七
	佛	一〇	三七、一五〇
	瑞	三〇	二五、九五〇
	那	一八	一〇、〇七一
	牙	四	七、八六一
	抹	三八	七二〇、三六八
計		七八二	

白耳義よりは勿論何等の報告なく又露西亞よりは商船建造

の報なし

▲尙右の表に對しがラスゴヘラルドは左の如く論せり

日本の合計は千九百十五年に比し約三倍にして此増加は主として大型貨物船の建造に因る和蘭に於ける造船業者は工事上類例なき困難に遭遇せり而して其一造船所の報告説明によれば材料を得る事困難漸次増加して工事の進捗を妨げ工程遅延する已むなきに至れりと又獨逸に關する數字は英國に於ける造船數を示す假定的のものにあらず此數字は唯報告を得たるもののみを示したものにして恐らく全額の一小部分を表したるものなる可し事實上此等の新造船は全部貨物船なり英國に於て進水せる最大船はベルファストに於て進水せる一萬二千噸のローヤルメル汽船プレクノクシエリー號及ヒグクーニノックに於て進水せる一萬千噸オーシヨンライン汽船チンドンダリウス號なり又た外國に於ける大型船の記錄はサンナゼールに於て建造せられたる二萬四千噸四萬五千馬力(實馬力)を有するタービン式汽船パリー號セストクボネンテに於て建造せられたる二萬千七百噸二萬二千馬力の伊太利のタービン式汽船デュル一號漢堡に於て進水せる二萬千五百噸の漢堡南亞米利加船スペンチャにて建造せられたる各一萬千四百七十七噸の伊太利汽船ミラゴ一號及ヴォルチウノ號佛國ダンナルクに於て建造せられたる一萬七百噸貨物船及ニュボートニユスに於て建造せられたる一萬五千噸の油槽船なりと(外務省調査)

●印度の製鐵業

印度に於ける鐵及鋼の生産額を調查すべし十分なる資料を得ざるか政府鐵道敷設の爲め軌條の生産著しく増加し且つ銅生産も亦大に増加したりと稱するも千九百十四年に於ては印度タ、製鐵鋼所の生産額は銑

鐵十六萬二千四百六十二噸、銅六萬三千四百四噸、ブルム七萬五千九百四噸、軌條及ビーム五萬五千四百四十三噸、條六千七百四噸にして又千九百十三年大鐵礦を發見し其生産額を増加するを得たりと稱するベンガール製鐵鋼所に於ける千九百十四年の生産額は銑鐵七萬二千四百四十四

其他一般鑄物の一萬八千四十八噸を生産し居れり目下印度の製鐵事業は戰爭の爲め頗る好成績を呈し居れるも將來尙現在の状勢にて益々發展すべきや容易に斷言し難し印度に於ける鐵礦の產出高は千九百十一年迄は平均八萬噸の年產額なりしか其後増加したりと稱する最近千九百十四年は四萬六百六十五磅千九百十五年は三萬千百五十磅に過されば尙前途永く外國品の輸入を俟たざる可からざるものなるへしと信せらる。

●吉林の鐵礦再掘 吉林縣下雙河鎮の西南梨樹阿子地方は山嶽重圍し、其西北方なる黑山頂子に於て、往年某支那人は純粹の鐵礦を發見し、調查の結果、湖北大冶以上の良質なる事を認め、民國三年王澤晋氏の發起にて、省城に銅鐵公司を開設したるも、株金勧募爲め終に中止と爲り居たるより、此程雙阿鎮銅鐵經營者の某氏より、更に之れか探掘を企て、目下該山主と商議中也。

●東洋製鐵委員會 東洋製鐵會社は本月二十二日常務委員會を開き左の事項を決議せり、

一、製鐵技師養成のため本年度東京、京都、九州の各工科大學卒業生中機械三名、採礦冶金三名、應用科學二名及技手養成のため商工程度若くは以下の各專門學校卒業生中より若干名を選抜し何れも八幡製鐵所委託生として採用する事。